

## 採択企画「京都政策立案コンテスト」

(代表者 林 亜沙美)

### 企画概要

法学部有志のゼミ対抗で政策を立案してもらい、コンテスト形式で発表を行う。

#### 【目的】

- ・法政策学科設立に伴う政策立案への関心を高める
- ・地域の課題発見
- ・法学部ゼミ間の発表、交流の場の提供
- ・発表及び発表までの過程を通じて自分に自信を持ってもらうこと

### 結果報告

- ・10ゼミが参加し、独自の政策案を発表。

多くの方からのご支援を受け、来年度からは法学部として開催続行が決定。

(但し、来年度からの開催に向けて、時期や形式は考察の余地がある。)

- ・また、この活動は学外にも活かされ、準優勝の村山ゼミが第5回政策系大学・大学院研究交流大会で京都府知事賞を受賞した。
- ・アンケート結果は97%の満足度を得た。

### 感想・まとめ

#### ◆ 最初は泣いてばかりの毎日

「賞金がでない」「応募してくれるゼミがなかったらどうしよう」「メンバー抜きたい」…

たよりない代表のせいで、教職員の方々・メンバーをはじめ、本当に多くの方にご迷惑をおかけしました。

ですが、このチャレンジを通して「一人の力ではできないこともみんなの力でならできる」それがキレイごとではないのだと実感しました。あれだけ悩んでいた賞金もメンバーが交渉に行くことにより認められ、メンバーと一緒に各ゼミに呼びかけに行きゼミ数も予想以上の応募があり、突き放されることで自分の短所も教えてもらうことができました。今では、はっきりと私の間違いを指摘して、私に変わるチャンスをくれたメンバーに心から感謝しています。

#### ◆ 「このためにやってきたのか……」

参加者もメンバーも夏休みに大学に呼び出され、早起きさせられ、本当にしんどいことばかりだったと思うし、私自身も「何のためにやっているんだろう」と分からなくなると

きが正直ありました。

それでも参加者達の頑張る姿に何度も励まされ、それが運営していく「モチベーション」となり、ただただがむしゃらにコンテストに取り組んでいました。その疑問が解消されたのは、コンテスト当日。優勝ゼミの喜ぶ姿を見て初めて、不安が解消されたと同時にふつと肩の力が抜けました。

◆ 最後に伝えたいこと!!!

これは私達メンバーだけの「チャレンジ」にしたくないという想いがずっとありました。参加してくれた人にとっての「チャレンジ」でもあってほしいという考えから、学生部の方とも何度も衝突しました。私のわがままを聞いていただき、本当にありがとうございます。

これからも、自分がチャレンジしたら終わりではなく、今度はその体験や感情を他の人にも伝え影響を与えていきたいと考えています。そして、その「チャレンジ」経験が一人ひとりの進路に向かっていくための「自信」となってくれることが私の最終的な目標です。

以 上